

平成27年度（平成26年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価に関する報告書

平成27年12月

常陸太田市教育委員会

## 目 次

### ．教育委員会施策の点検・評価の概要

1．趣旨	1
2．点検・評価の目的	1
3．点検・評価の対象	1
4．点検・評価の方法	1
5．点検・評価結果の公表等	2
6．点検・評価結果の概要	2
7．施策別点検・評価	3
8．スケジュール	3

### ．施策別点検・評価

教育委員会施策の点検・評価書（平成 26 年度事業）	4
----------------------------	---

参考 教育委員会の活動状況	26
---------------	----

## 平成 27 年度教育委員会施策の点検・評価(平成 26 年度事業)の概要

### 1. 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定に基づき、市教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う。

### 2. 点検・評価の目的

教育委員会における主要な施策や事務事業について点検・評価を行い、課題や取組みの方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

点検・評価の結果について報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし市民に信頼される教育行政を推進する。

### 3. 点検・評価の対象

平成 26 年度施策を点検・評価する。

- ・常陸太田市第 5 次総合計画後期基本計画における教育委員会所管の 12 施策

### 4. 点検・評価の方法

施策を構成する主な事務事業の評価を基に、施策の目標達成に向けた取組状況と成果の点検・評価を実施する。

学識経験者による教育行政評価委員が、施策評価や施策の改善点等について審議する。

#### (1) 事務事業の評価

施策の目標達成のために行った主な事務事業について、その成果や課題を精査検証し評価する。

評価については、「a 期待した成果があった」、「b 一定の成果があった」及び「c 見直しや改善が必要」の三段階で評価する。

#### (2) 施策の総合評価

事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を評価する。

評価については、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の三段階で評価する。

今後の方向性を明確にするため、「課題と今後の方向」を記載する。

#### (3) 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する教育行政評価委員の審議を行う。

教育行政評価委員（敬称略）

分野	氏名	所属等
学校教育	村田 規	元学校長（元学校長会会長）
社会教育	益子 治	社会教育委員会議長
保護者関係	栗原 香	市女性ネットワーク委員会委員長（久米小）

5. 点検・評価結果の公表等

(1) 議会への提出

点検・評価の結果について報告書を作成し、市議会に提出する。

(2) 市民への公表

報告書を市ホームページにより公表する。

6. 点検・評価結果の概要

主な事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の三段階で評価した。

点検・評価結果の概要は下記のとおり。

総合計画における教育委員会所管の12施策

番号	施策名	評価結果	主な事務事業数	主な事務事業の評価結果		
				a	b	c
1	子育てへの支援	B	3	2	1	
2	豊かな心の育成	B	6		6	
3	魅力ある学校づくり	B	10	5	5	
4	国際力の育成	C	3		2	1
5	多様な学習機会の支援	B	3	1	2	
6	地域文化活動への支援	B	4	1	3	
7	スポーツ・レクリエーション活動への支援	B	4	1	3	
8	犯罪のないまちづくり	B	1		1	
9	地産地消の推進	B	1		1	
10	歴史資源の保護・活用	B	5	1	3	1
11	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化	B	4	2	2	
12	広域連携・交流の推進	B	1		1	
計			45	13	30	2

## 7. 施策別点検・評価

別紙「教育委員会施策の点検・評価書（平成26年度事業）」による。

## 8. スケジュール

7月上旬 各課等による「点検・評価書」原案作成を依頼



7月下旬 各課等の「点検・評価書」原案の取りまとめ



評価委員会提出用「点検・評価書」の作成（内部協議）



11月中旬 教育行政評価委員会の開催（外部評価）



「点検・評価に関する報告書」の作成



11月下旬 教育委員会定例会に提出



12月上旬 市議会定例会に提出

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	子育てへの支援		担当課	教育総務課・生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で安心して子どもを産み育てられるよう、地域ぐるみの子育て支援体制の充実を図る。</li> <li>・経済的支援や相談体制など、子育て家庭への支援対策の充実を図る。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族化や少子化、高度情報化など子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、子育てへの不安が社会問題となっている。安心して子育てができる環境や子育て家庭へのよりきめ細やかな支援など、少子化・人口減少対策の一環として、地域ぐるみの子育て支援の一層の充実を図る必要がある。</li> <li>・子育て世代の経済的負担を軽減するため、市立幼稚園に通う第3子以降の園児及び市立幼稚園に2人就園している場合の2番目の園児の保育料について減免を実施。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	放課後子ども教室推進事業	・放課後の小学生の活動場所として、ボランティアが子どもたちの安全を見守りながら一緒に活動し、子どもたちが安心して自由に「学び」「体験」「交流」「遊び」ができる環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全小学校区(13小学校区)で放課後子ども教室を実施し、うち8小学校区で週1回、5小学校区で週2回実施した。実施回数586回、参加児童数420人、ボランティア登録人数は261人であった。</li> <li>・市内の全小学校区で実施し、対象児童の96.3%が参加した。</li> </ul>			b
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	・市立幼稚園に通う園児が第3子以降にあたる場合、保育料の全額免除。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・58名の減免申請があり、減免を認定した。</li> </ul>			a
市立幼稚園保育料の2人目減額措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立幼稚園に同一家庭から2人就園している場合の2番目の園児について、保育料を年間40,000円減額。</li> <li>・平成26年度から小学生1年生～3年生に兄弟がいる最年長者についても、減免の対象としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・158名の減免申請があり、減免を認定した。</li> </ul>			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	放課後子ども教室推進事業	放課後子ども教室への参加率(%) (参加人数/対象人数)	87	88	96	b
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	減免認定者数	73	56	58	a
	市立幼稚園保育料の2人目減額措置	減免認定者数	-	29	158	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室のボランティアの人数に偏りがあることから、円滑な事業推進を図るため、運営委員会や学校、ボランティアとして活動されている地域の方々の調整を行いながらボランティアの確保をすることが課題である。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の子育て支援については、子育て上手をキャッチフレーズに掲げ多くの事業を行いその成果を上げている。一方で、補助金や助成金制度など、その適用期間は本市に住み、適用期間が過ぎると転出される等の懸念もある。子育てへの支援については、人口増につながるよう、引き続き全庁的な取り組みを期待したい。</li> <li>・第3子以降に対する手厚い支援施策のため、預けやすい、働きやすい環境の整備が推進されている。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	教育総務課・生涯学習課・図書館
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる		
	第1項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたち等が感性を磨き豊かな創造力を身につけられるよう、音楽や芸術活動、読書活動を推進する。</li> <li>市民の総意を結集し、連帯と協調によって青少年の健全育成を図る。</li> <li>絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる。また、幼少の早い時期から本に親しんでもらう。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生に楽器演奏や演劇等を鑑賞させることにより、芸術への関心をたかめさせ、感動の心、豊かな情操を涵養し、健全な青少年を育成していく。</li> <li>児童・生徒の読書活動を推進するため学校図書館の充実を図っている。</li> <li>少子化や高度情報化、都市化など青少年を取り巻く社会環境が激変する現状の中で、青少年を取り巻く生活環境は悪化の傾向にあり青少年による衝動的な犯罪や陰惨な事件が頻発するようになってきている。このような青少年を取り巻く問題に対処するためには、学校や関係団体、関係機関との連携・協力を図りながら、家庭や地域社会における教育力の向上に努め、優れた地域資源や人材を活用して、郷土常陸太田市への愛着を持った青少年健全育成を推進する必要がある。</li> <li>核家族化や晩婚化が進行する中、子育てへの不安が社会問題となっている。そうした中で、親子の触れ合いをもつことは子育て支援にもつながり、赤ちゃんの早い時期から本に触れることにより感情や想像力の向上を図っていく。</li> </ul>			
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学5・6年、中学1・2年を対象に市民交流センターにおいて楽器演奏や演劇等を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術への関心をたかめさせ、感動の心、豊かな情操を涵養している。</li> </ul>	b
	学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省の設定している学校図書館の図書標準冊数(学級数により異なる)を達成するため、計画的に図書を購入している。</li> <li>小学校の学校図書館へ専任司書の配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度より、小・中学校全校で学校図書館の図書標準を達成している。</li> <li>平成24年度より、小学校全校に専任司書を配置し学校図書館の充実を図っている。</li> </ul>	b
	青少年健全育成市民の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「青少年健全育成市民の会」の活動支援を行う。</li> <li>青少年主張作文の募集及び 弁論大会の開催</li> <li>毎月第3日曜日の『家庭の日』の推進(絵画・標語等作品募集、自然体験事業の実施)</li> <li>『あいさつ・声かけ運動』の普及・推進</li> <li>青少年育成茨城県民会議との連携・協力</li> <li>地区推進協議会、町推進委員会における事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の会表彰要綱に基づく表彰(団体4組、個人2名)</li> <li>機関紙『グリーンネックレス』の発行(2回)</li> <li>家庭の日絵画、標語等募集(応募総数598点)</li> <li>家庭の日推進講演会(参加者数300人)</li> <li>市内巡回パトロール(2回延17人参加)</li> <li>視察研修(参加者数 22人)</li> <li>青少年の主張作文195点</li> <li>弁論大会(参加者数260人)</li> <li>『あいさつ・声かけ運動』等街頭キャンペーン(2回50人)</li> </ul>	b
	西山研修所管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな地域資源を活用した共同生活訓練などを通して、成人及び青少年の人間形成を図るとともに、都市との交流を図り活力ある地域づくりに寄与するため西山研修所運営をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理2年目となった平成26年度は、利用者数32,964人で、震災前33,851人であった平成22年度と比較し、97.4%(対平成24年度145.8% 対前年度 115.6%)まで回復している。(平成24年度利用者数22,605人)</li> </ul>	b

事務事業の 成果と評価	ブックスタート	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくり推進課が実施する0歳児(4~6ヶ月児)健診時に、ボランティアによる読み聞かせを実施した後、ブックスタートパックをプレゼントする。</li> </ul> 《ブックスタートパック》 (絵本2冊,ブックスタートのしおり等布製バッグに入れたもの)	・絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくることができました。 平26対象者…279人 平26受領者…236人	b		
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	参加した児童生徒数(人)	1,939	1,863	1,776	b
	学校図書館の充実	図書標準達成校数(校)	22	22	21	b
	青少年健全育成市民の会	市民の会主催事業の参加者数(人)	1,882	1,539	1,582	b
	西山研修所管理運営事業	利用者数(人)	-	28,515	32,964	b
	ブックスタート	ブックスタートパック贈呈率(%)	93.4	89.8	84.6	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
課題と 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度に小・中学校それぞれ「芸術鑑賞教室実施計画」を作成したので、鑑賞内容が偏らないよう計画的に実施していく。</li> <li>小学校全校に専任司書を配置したので、これまで以上に司書教諭と連携し、より魅力ある学校図書館を運営していく。</li> <li>青少年健全育成に対する市民ひとり一人の意識を高めていくことが課題である。青少年の健全育成の推進を図るためには、青少年健全育成市民の会をはじめとし、学校や地域、関係団体等との連携・協力が不可欠であるので、今後も関係機関等との連携強化を進めながら、各種事業の充実化や各種推進運動の普及を推進する。</li> <li>平成22年度から実施しているが、ブックスタート事業のPRに努め、対象赤ちゃんに兄弟姉妹と同じ絵本がプレゼントされないよう選書に配慮し、贈呈率の向上を図る。また、おはなし会やその他の図書館行事にも足を運んでもらい、幼少の早い時期から本に親しめるよう継続していく。家族みんなが本に興味を持ち、読書環境をつくることによって図書の利用向上を図れるよう推進していく。</li> </ul>					
教育行政 評価委員 による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館の専任司書と学校教諭の連携と併せ、市立図書館の図書館司書との連携を図り、全体としての読書活動が推進されることを期待したい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	各学校の人権教育や、道徳、特別活動、生徒指導の充実を支援することによって、いじめや不登校等を未然防止、早期発見及び早期解決を図るとともに、児童生徒の内面的な実態や保護者等からの情報により積極的に児童生徒を支援し、自己有用感を高め、自他の生命を大切に、やさしい心をもってたくましく生きる児童生徒を育成する。					
現状と課題	・全小中学校で小学4年生から中学3年生までの全児童生徒に年2回のQ-Uアンケート(よりよい学校生活と友達作りのためのアンケート)を実施するとともに、分析や活用について教員の研修を実施している。各学校や学級においては、児童生徒一人一人の実態を捉えた生徒指導や学級経営を行うなど、積極的に事業推進が図られている。また、地域や児童生徒の実態を踏まえた道徳、特別活動等の取組が効果的に位置づけられている。今後は、教職員の資質を高めるために、適切な分析のもと、児童生徒の自己有用感を高めて「夢育」を具現化するために具体的な施策を計画していく必要がある。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	あたたかな人づくり推進事業	規範意識の醸成と安心して学べる学校、学級づくりの推進	各学校が自校の実態把握と分析に努め、全職員による問題行動の未然防止を推進する。			b
		学校全体で取り組む道徳教育、人権教育の充実	学習指導や学級経営の基盤となる人権教育や道徳の推進により、豊かな心の育成に努めている。			
親子ともみがき活動の展開による家庭教育の充実		親子ともみがき活動を家庭・地域との連携による教育効果の向上の機会と捉え、積極的に推進している。				
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	あたたかな人づくり推進事業	いじめ解消率		98%	97%	b
		全国学力学習状況調査アンケート「人の気持ちがわかる人間になりたい」児童生徒割合(H20.21.25)	95%	95%	96%	
		全国学力学習状況調査アンケート「今住んでいる地域の行事に参加していますか」児童生徒割合(H26)			71%	
「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合		93%	92%	94%		
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・豊かな心の育成は、児童生徒一人一人の自己有用感を高めることが必須である。そのためには、児童生徒の一人一人の内面性や発達段階、家庭の状況等を具体的に把握し、その状況に応じ適切に対応していくことが重要である。以上の点から本市の取り組みを考察すれば、PDCAサイクルを生かして改善と実践を進めている成果が見られる。その反面、教師が児童生徒の「好ましい状況」を全体として捉えて安心してしまふ傾向が懸念される。よって、今後いかに児童生徒一人一人に合った適切な指導を実践できるかが鍵となるので、児童生徒の実態を詳細に分析することと支援の手立てを組織で推進することが必要である。					
教育行政評価委員による意見	・成果を示す主な指標の数値(%)がそれぞれ高い数値になっている。一方で、例えば「学校が楽しい」と答えられない児童生徒も数パーセントいる。その少数の児童生徒への対応についても着目し、指標や数値上のデータに見えない事例などにも目を配り、本市が目指す心の教育を推進してほしい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	教育総務課
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる		
	第1項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上と児童・生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を目指して、教職員の資質向上を図る。</li> <li>・学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する。</li> <li>・園児・児童・生徒の通園通学手段や安全を確保するため通園・通学バスを運行するとともに、遠距離通学する児童生徒の通学費を補助し、保護者の負担軽減を図る。</li> <li>・学校施設等の耐震化や老朽施設の改修整備を推進し、学校規模・配置の適正化を図る。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒及び園児の数は、少子化の進行により減少し、複式学級や学級数の減少が進み、小・中学校や幼稚園においてこれらをできるだけ解消するため、統廃合の協議が進められている。</li> <li>・園児及び児童・生徒の安全確保や通学時間の短縮のため、また、幼稚園統合による園児の通園手段を確保するため通園・通学バス等を運行する。</li> <li>・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、バス通学及び自転車通学者に対し通学費を助成する。</li> <li>・学校施設の耐震化や老朽施設の更新・整備等は計画的に進めているが、施設整備の前倒しや整備方針の変更など早急に完了する必要がある。</li> </ul>			
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果	評価
	学校統廃合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の影響で、園児・児童生徒数が減少し小規模化している。</li> <li>・小中学校等における仲間づくりや教育内容の質的充実を図るため、適正規模を確保し、より良い教育環境を整えていく必要がある。</li> <li>・将来的な園児・児童生徒数の推移や地域の地理的・歴史的な成り立ちによる生活圏等に配慮した市の全体的な適正配置に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南中学校と北中学校を統合し、金砂郷中学校として開校するにあたり、統合に係る調整会議を開催し、保護者等の意見を聞きながら通学方法等の調整を進めた。</li> </ul>	a
	通園・通学バス運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園・通学バスの運行業務委託、タクシーによる送迎業務委託。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児及び児童・生徒の安全確保、通学時間の短縮。</li> </ul>	b
	遠距離通学費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校：通学距離4km以上のバス通学者に対し、定期代全額補助。</li> <li>・中学校：通学距離6km以上のバス通学者に対し、6kmを超える部分の定期代の補助。また、通学距離6km以上の自転車通学者に対し、月額1,000円を補助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減。</li> </ul>	b
学校施設耐震診断・耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園及び小中学校の校舎・屋内運動場の耐震診断を行い、改修が必要な施設について実際の耐震改修工事を行う。耐震改修については、平成26年度完了となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震改修工事は、中学校1校(屋内運動場)と小学校1校(屋内運動場)について実施し、耐震化率は平成26年度末で96.2%になった。</li> </ul>	b	

事務事業の 成果と評価	里美小中学校整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賀美小学校と小里小学校を統合整備し、現里美中学校校舎に接続した校舎を建設、小中一貫教育を目指す。さらに、里美地区の教育ゾーンを確立させ、規模適正化を図る。</li> <li>・構造：鉄筋コンクリート</li> <li>・階数：地上2階</li> <li>・延床面積：11,184.44㎡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里美小学校統合校舎建設については、平成25年度に完了し、平成26年度には里美小中学校が共有する屋内運動場の建設が完了した。</li> </ul>			a
	金砂郷統合中学校整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南中学校、北中学校を統合、中学校規模・配置の適正化を目指し、金砂郷統合中学校の校舎及び屋内運動場の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から平成27年度の2か年にかけて統合校舎建築を実施する。(平成27年8月に工事を完了予定、2学期から新校舎において教育活動を行う計画。)</li> </ul>			a
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	通園・通学バス運行	園児・児童・生徒の乗車人数	243	210	198	b
	遠距離通学費補助事業	補助実施者	264	226	144	b
	耐震診断	耐震診断実施(校)	1	1	0	b
	耐震改修	耐震改修工事実施済(校)	3	7	2	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
		○				
課題と 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校等の統合については、市の統合方針(案)に基づき、積極的に関係者と調整を図り推進する。</li> <li>・通園・通学バスについては、園児が減少している中、運行コストが上がっているためコストの抑制を図っていく必要がある。併せて、子どもたちの体力や社会性の育成、地域の維持・振興に必要な公共交通機関に対する影響を踏まえ、スクールバス運行の在り方を検証していく必要がある。</li> <li>・中学生の自転車通学者に対する補助額が、地区によって異なっていたため平成25年度より統一する。</li> <li>・耐震改修及び耐震化においては、統合を予定している南中学校以外のすべての建物において、耐震化完了予定年度の平成27年度を1年前倒して平成26年度までに完了した。</li> <li>・里美小中学校整備については、平成25年度に中学校に隣接した小学校校舎を建設し、平成26年度当初に小里小・賀美小が統合した。同年に里美中学校が共有する屋内運動場の建設が完了した。今後は、旧屋内運動場の取壊し及び外構工事を予定する。</li> <li>・金砂郷統合中学校整備については、統合校舎建築を平成27年度中に完了予定とした。平成29年度には屋内運動場建築を予定し、平成30年度には外構工事を実施し、事業完了となる。</li> </ul>					
教育行政 評価委員 による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校統合にあたり遠距離通学となることが想定され、児童生徒の通学バスの環境整備が必要となる。例えば、スクールバスの運行は保護者の安心感や通学時間の短縮等のメリットもあろうが、路線バスのダイヤ調整等により地域の高校生や高齢者などの足となる等、地域にとってのメリットも多くある。市全体的な交通対策と捉え検討することも必要である。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	各学校が、学校評価、県学力診断のためのテスト、全国学力・学習状況調査、体力テスト等の分析と改善策及び生徒指導上の実態に基づいた課題解決を目指したり、地域の特性を生かした教育活動を取り入れたりしながら、特色ある学校づくりを推進することにより、児童生徒一人一人の「夢育」を推進する。					
現状と課題	・各学校が自校のよさや課題を分析し、児童生徒の力を高めるための適切な事業計画を作成した上で実施している。事業計画は、学校や地域の特徴・よさに基づき、自校の児童生徒の伸ばしたい力を明確にした上で作成している。また、ヒアリングにおいては、目的の明確化と活動内容の妥当性も検討の上で実施している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	活力ある学校づくり推進事業	学校としての特色と学校の教育目標の具現化を明確に打ち出した教育活動を充実させる。	学校の主体的な教育実践による学校の活性化(地域の教育力の活用、市学校教育指針の具現化、効果的な学校評価の実践等) 児童生徒一人一人の実態に応じた教育効果の向上(学力向上、道徳的実践力の育成、家庭学習の習慣化、体力の増進、郷土を愛する心)			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	活力ある学校づくり推進事業	評価報告書(4段階)			3.6	a
		「授業がわかる」と答える児童生徒の割合	91%	90%	91%	
		「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合	92%	93%	94%	
		体力テスト総合評価(A+B)の割合	66%	65%	64%	
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	<p>本事業の趣旨が浸透し、各学校とも自校のよさや課題を明確にした上で、地域や児童生徒の実態を踏まえた体験活動や学力向上を目指した日常的な取組、外部講師の招聘等が効果的に位置づけられ、積極的に事業推進が図られている。各学校とも自校の特色を生かした教育活動を展開することに意欲的であり、郷土常陸太田市への愛着を育む活動にも積極的である。各学校とも自校の特徴を十分理解した実践が定着し、自主的な活動について成果が見られる。</p> <p>今後も継続することで、児童生徒一人一人の夢や志を確かなものにするために必要な「生きる力」の育成に努める。また、各学校の教育プランと連動させることにより、よりダイナミックかつ創造的な教育活動が展開されると考えられる。学校の主体性が生かせるよう活動内容の枠組みに自由度をもたせ、各学校を支援したい。</p>					
教育行政評価委員による意見	・各学校において地域の実情に合わせた様々な取り組みが行われている。学校としての特色を打ち出し、学校の主体性が活かせるよう活動内容の枠組みに自由度を持たせ、児童生徒の夢や志を確かなものにするよう支援してほしい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり				担当課	指導室
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	学校や児童生徒一人一人のニーズに応じた支援を行い、「夢育」を推進するために必要な「生きる力」の育成を図る。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模の小学校9校に、それぞれ1名ずつTT非常勤講師を配置し、チームティーチングによる学習指導方法を取り入れ、各学校においてきめ細かな指導を行っている。</li> <li>・特別支援教育指導員は、19名を11小学校、2中学校と教育支援センターに配置し、特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行っている。</li> <li>・各校とも限られた時間を有効活用し、児童生徒の学力向上に資するよう指導の工夫改善に努める。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	TT特別配置	各学校で課題が見られる教科や学年に配置し、効果的に活用する。	学級での複数の指導者による支援は、児童生徒一人一人に即したきめ細かな対応が可能となり、学習意欲や学力向上に果たしている役割は大きい。			b
	特別支援教育指導員配置	学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行う。	対象児童生徒に対する適切な個別支援が進められており、学習機会の保障及び学校生活における安全確保ができています。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	TT特別配置	TT配置学校数	12	9	9	b
	特別支援教育指導員配置	特別支援教育指導員の配置人数	24	20	19	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<p>当該及び周囲の児童生徒が学級の中で安心して学べるという心の面でのきめ細かな支援を要する児童が多くなってきている。また、より専門性を有する指導者の支援が必要な児童生徒への対応は、不十分な面もある。非常勤ではあるが、十分な打合せを行うなど各学校とも限られた時間を最大限に有効活用して、児童生徒が安心して学べるよう指導の工夫・改善、一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める。</p> <p>学級担任が教育指導に専念し、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導のために、非常勤講師を有効活用することは、さらなる学力向上に効果的である。また、専門的な指導ができる特別支援学校との連携を一層推進する。</p>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の児童生徒数は減少傾向にありながら、特別な配慮を要する児童生徒数は増加傾向にあると言われていいる。対象児童生徒の支援については、家庭(保護者)との連携も不可欠であることから、TT非常勤講師や特別支援教育指導員については、関係機関と連携を図る等、効果的な支援に向けた役割を担ってほしい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	児童一人一人の科学に関する関心、意欲や科学的思考を高めるために、学校教育や生涯学習における児童の理科を学ぶ機会を保障するとともに、実技研修会の開催により、教員の理科指導力向上と学校における指導体制の充実を図る。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて教科として「理科」の指導が入る小学校3・4学年の指導担当者を対象として、科学的な関心・意欲や思考力を高める指導法の研修会を行っている。</li> <li>・理科指導における教員全体の指導技術の向上を図るため、基本的な実験実技や新しい教材開発など、コース別の実技研修会を行っている。</li> <li>・楽しい理科授業づくりと教員の指導力向上のために、校内外の研修への積極的な参加や授業をバックアップする方法をさらに工夫する必要がある。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	未来を拓く常陸太田っ子サイエンスプロジェクト事業	理科指導法研修会の実施(本年度は6回で1回増)	理科実技研修や入門期の理科指導法研修会により、理科の授業に苦手意識を持つ小学校教員の指導力を向上させている。			
		外部講師の活用	外部指導者の活用により、ものづくりや野外活動等コース別の研修会が実施できた。			
科学作品展及び発明工夫展への参加		児童生徒の関心意欲を高め、科学研究作品や発明工夫作品の県北地区展での入賞者を維持することができた。				
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	未来を拓く常陸太田っ子サイエンスプロジェクト事業	入門期における理科指導法研修会の実施回数	5	5	5	
		小学校3・4年担当教員の参加人数(延べ)	92	87	102	
		科学作品展及び発明工夫展入賞者数(県北地区展)	36	34	28	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科指導法に関する研修会等の内容を充実させ、さらに小学校教員の理科指導力の向上を目指す。また、児童生徒の理科への興味・関心を高める手段として、校内での科学研究作品相談を積極的に開催する。</li> <li>・小学校理科教科担任制を実施している学校の実践を活用し、小学校教員研修の場を確保する。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科指導における教員全体の指導技術の向上のため、また、子どもたちにとって楽しい理科授業となるよう、引き続き、外部講師の活用を積極的に実施してほしい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	国際力の育成		担当課	教育総務課・生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の海外派遣の充実を図る。</li> <li>・市民や市内の外国人に外国語(中国語)並びに日本語を学ぶ機会を提供し、国際理解や交流を深める。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に広い視野と国際感覚を養うため海外研修派遣を実施している。</li> <li>・外国語講座を受講する希望者が多く、市民の関心は高まっている。年間を通した講師の確保が課題となっている。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	中学生海外研修派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学2年生を対象に、オーストラリアにおいて、海外研修を実施。学校訪問による授業体験、ホームステイ、施設見学等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に英語や国際社会への関心をたかめさせ、国際理解教育の推進を図ることが出来た。</li> </ul>			b
	外国語講座(中国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内在住の中国人の指導により講座を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学や外国の習慣を学ぶ国際理解を深めることが出来た。</li> </ul>			c
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	中学生海外研修派遣	中学生海外研修申込者数	37	49	35	b
	外国語講座(中国語)	外国語講座受講者数	132	133	17	c
	外国人に対する日本語講座	日本語講座受講者数	7	5	10	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
					○	
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の広い視野と国際感覚を養うため、研修内容の充実を図りながら実施していく。</li> <li>・平成26年度については、外国語(英語)講座講師の確保が困難となり講座を開講することができなかった。外国語(英語)講座へのニーズは高く、ALT、市内在住の外国人の招聘など様々な手立てを用いて講師を確保し、英語講座の開講を図る。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生海外研修派遣は、中学生にとって人生観や感性が養われる貴重な体験である。今後も継続した取組を期待したい。</li> <li>・外国語(英語)講座のニーズが高いようなので、講師を確保し、魅力ある講座の開講を期待したい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援		担当課	生涯学習課・生涯学習センター		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズやまちづくりと連携した学習内容や機会の充実を図る。</li> <li>・市民に地域の素晴らしさを知る学習機会を提供し、地域資源活用の推進を図る。</li> <li>・科学の好きな子どもを育てる。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における社会教育・生涯学習の拠点として設置された公民館において、市民の教養の向上や生活文化の振興を図ることができるように、各分野にわたる公民館活動の活性化を推進しているが、各地区の人口や就労状況等の違いにより公民館の活動内容に大きな開きがあるが、地域の特性を生かした事業を展開していくことが課題である。</li> <li>・地域資源を活用した講座として歴史講座、自然講座や常陸太田探検隊講座等を開催している。引き続き魅力ある講座の企画が必要である。</li> <li>・現在、小学校や中学校で「理科離れ」が進んでいると言われていたが、小さい段階から自然や科学の現象に触れたり、体験を通して理科の好きな子を育てるのが課題である。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公民館活動活性化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館に活動の原資となる助成金を交付するとともに、公民館職員の研修や講習会を実施し、各分野バランスのとれた一般教養・家庭教育、健康、女性、青少年、高齢者、スポレク・コミュニティ、趣味の7つの分野に分けた学級・講座等を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズを的確にとらえたバランスのとれた事業、これまでの自己欲求を満たすだけの事業ではなく、地域コミュニティの振興やネットワークの強化を図り、「人づくり」「まちづくり」に資するため、市内19の公民館において343種の教室、講座を運営し、45,149人の参加者があった。</li> </ul>			b
	地域資源学習講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等のほか、各地区の特色を活かした講座を実施し地域の素晴らしさを学ぶことができた。</li> </ul>			b
子ども科学クラブの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども科学クラブ実行委員会を開催し年10回の教室を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想以上の参加申込みがあり、参加した児童たちは、楽しみながら科学の実験や体験をすることができた。</li> </ul>			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	公民館活動活性化対策	公民館事業参加者数(人)	49,048	47,579	45,149	b
	地域資源学習講座	参加者数(人)	441	402	494	b
	子ども科学クラブの開催	開催回数(回)	10	10	10	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動全体のさらなる活性化とともに活動レベルの平準化を図ることが課題である。公民館職員を対象とした研修会を行い個々の資質の向上を図るとともに、地域住民のニーズを的確にとらえた学級、講座等の企画・運営を行ない事業レベルの底上げを行っていく。</li> <li>・各地域の特色ある史跡、歴史、自然等を生かした講座の企画が今後の課題である。引き続きアンケートなどを基に内容や開催場所、日時等についても検討していく。</li> <li>・子ども科学クラブ事業は、対象学年小学3年生以上、募集人数72名で行っている。低学年にも理解しやすい内容とするよう常に検討しなければならない。独創的な実験や魅力的な工作などを導入し、子どもたちの興味をより一層高めていく。</li> </ul>					

教育行政 評価委員 による意見	・子ども科学クラブは楽しみながら科学の実験ができ、リピーターが多いと聞いている。また参加したいという興味・関心が高まり学習に繋がっている。 ・各地域には史跡・歴史・自然等、様々な特色がある。引き続き、これらを生かしながら講座の企画を工夫して行ってほしい。
-----------------------	--

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	地域文化活動への支援				担当課	生涯学習センター	
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる					
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり					
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生涯学習に対する意識を高めるとともに、市民一人ひとりの自主的学習を促進し、生涯学習の一層の振興と地域の活性化を図る。</li> <li>市民の芸術や文化活動、教養を高める自主的な活動を活発化するため、活動や発表の場を提供する。</li> </ul>						
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区において、特色を活かした生涯学習フェスティバル等を開催しているが、参加団体が少なくなっている地区がみられる。 生涯学習センター(2月開催:生涯学習フェスティバル) 金砂郷学習センター(11月開催:芸術文化の祭典inかなさごう) 水府学習センター(11月開催:水府地区きらめきフェスティバル) 里美学習センター(11月開催:里美文化祭)</li> </ul>						
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価	
	生涯学習フェスティバル等の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習センターにおいて、それぞれ地域の特色を活かした生涯学習成果発表会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者には、日頃の生涯学習の成果の発表をすることにより、更なる学習意欲の高揚になっている。また、来場者には市内で活動している生涯学習サークルの紹介の場になっている。</li> </ul>			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価	
	生涯学習フェスティバル等開催	参加団体数	193	211	157	b	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習フェスティバルは、各学習センターを利用する様々な生涯学習団体の成果発表の場であり、来場者数の減少は参加団体数の減少と一体の関係にある。如何にして生涯学習団体を育成していくかが鍵となる。</li> <li>生涯学習団体の発足や拡充発展の機会となる生涯学習講座の開催及び関係団体、関係課等との連携により活動的な生涯学習団体の育成に努める。</li> </ul>						
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区において生涯学習成果発表会を実施しているが、参加団体や来場者が少なくなっている。生涯学習団体の育成については、関係団体や関係課等との連携により拡充を図られたい。</li> </ul>						

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	地域文化活動への支援		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	・市民の芸術や文化活動, 教養を高める自主的な活動を活発化するため, 活動や発表の場を提供する。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の助成により, 市内の音楽関係団体や芸能文化団体が一堂に会した発表を行い, 市民に鑑賞や発表の機会を提供している。来場者についても実績を上げている。</li> <li>・市民の芸術文化活動の発表の場として, 市美術展覧会, ひたちおおた芸能祭等の文化事業を開催している。</li> <li>・市民交流センターの管理運営を指定管理制度に移行し, 指定管理者による効率的な運営やサービスの向上を図っている。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	美術展覧会開催	・市民等の創作活動の成果発表の場として, 美術展覧会を開催する。	・市民及び市内各小学校に参加を呼び掛けて市美術展覧会を開催した。			b
	文化振興補助	・文化団体が実施する文化公演事業に対し補助を行う。(5事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該補助により各種文化事業が開催された</li> <li>サマーふれあいコンサート</li> <li>市民ふれあいコンサート</li> <li>都々逸全国大会</li> <li>ひたちおおた芸能祭 ほか</li> </ul>			b
市民交流センター管理運営	市民交流センターの管理運営を指定管理制度に移行して実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者独自のノウハウを用いて事業を実施し, 特に有料公演事業の入場者数において十分な成果を挙げ, 初年度から収支の黒字化を達成した。</li> </ul>			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	美術展覧会開催	一般の部出品点数(件)	196	195	184	b
	文化振興補助	事業の入場者数(人)	3,000	3,000	3,000	b
	市民交流センター管理運営	利用者数(人)	97,732	93,134	112,927	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容が硬直化している傾向があるので, より多くの市民に関心を持たれるよう内容の見直しを行いたい。</li> <li>・市民交流センター管理運営については, 指定管理者と密に連絡調整を行い, 効率的な運営やサービスの向上を図っていききたい。</li> <li>・美術展覧会については, 内容の充実を図るために, 出品点数の増加を図り継続して実施していききたい。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民交流センターの管理運営を指定管理制度に移行し, 入場数が増えている。今後もより多くの市民に関心をもたられる内容の企画を実施してほしい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動への支援		担当課	スポーツ振興課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	・子どもから高齢者や障害者まで、誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しくスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備を進める。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進む中で、市民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう各種の教室や大会を開催するとともに、こうした活動に適切な指導・助言ができる指導者の養成・確保に努めている。</li> <li>・運動習慣のきっかけづくりとしてチャレンジデー、市民健康スポーツデー、体力測定、ラジオ体操の習慣化に取り組み、スポーツ推進委員協議会並びに体育協会等との連携を図りながら、スポーツの実施率の向上と市民の健康づくりを推進している。</li> <li>・体育施設については、少年野球場の改修や親水広場等を整備し、市民に親しまれる施設に努めているが、他の施設は老朽化が進んでおり、今後、計画的な修繕・改修が必要である。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	各種スポーツ大会の開催	・市民の体力づくり、競技力向上のために各種スポーツ大会を開催する。	・5大会のうち、駅伝・ロードレースは小中学生を中心とするスポーツ振興に効果があった。登山マラソンにおいては、参加者が毎年増加し、交流人口増加や市のPRにも貢献できている。			b
	市民体力づくり推進	・市民の健康づくりや体力づくりを目的として、運動習慣づくりの啓発広報及び各種スポーツ教室を開催する。	・体力測定、ラジオ体操、グラウンドゴルフ等の実施及び普及を図り、健康づくりやスポーツの振興が図られた。また、ジュニア陸上教室等も開催し、運動への魅力の機会を設けた。			b
	スポーツ施設整備	・市民が安全・安心にスポーツ・レクリエーションに親しめる施設環境の整備を進める。	・施設全体で利用者は30万人を超えており、スポーツの振興が図られている。平成24・25・26年度と年々利用者が増えている。			b
	温水プール運営	・市民の健康増進を図るため、民間のノウハウを活用した指定管理制度による運営を行う。	・水泳教室や体操教室などの自主事業に積極的に取り組んでおり、利用者は前年より増加している。			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	各種スポーツ大会の開催	参加者数(人)	3,945	2,805	3,302	b
	市民体力づくり推進	参加者数(人)	22,263	23,661	28,613	b
	スポーツ施設整備	体育施設利用者数(人)	214,547	218,707	335,588	b
	温水プール運営	温水プール利用者数(人)	55,724	53,992	54,050	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と高齢化が進む中において、健康でいきいきと市民が生活できる環境を進めるために、市民がそれぞれの年齢や体力に応じてスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し、楽しみながら健康づくりができる各種事業を推進する。</li> <li>・スポーツを通じた市民の健康づくりに資するため、ラジオ体操の習慣化を推進する。</li> <li>・老朽化した施設については、施設整備計画を策定し、緊急性の高いものから計画的に改修する。</li> <li>・民間の経営で培われた経営手法を活かしてスポーツ施設の管理運営を進める。</li> </ul>					

教育行政 評価委員 による意見	・体力づくりの推進については、中高年層を中心に社会的関心度が高い。その中で、就学前児童を対象にしたリズム教室や小学生を対象にした陸上教室を開催するなど、ジュニア層にも楽しく喜んでもらえる教室が開催され運動やスポーツの習慣づくりが推進されている。西金砂登山マラソンでは、ボランティアを含め運営側のおもてなしの心が随所に見られ、市外の大きなマラソン大会の魅力とは違った地域の特長が生かされている。引き続き継続させてほしい。
-----------------------	---

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	犯罪のないまちづくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	「安らぎのある快適環境」をつくる				
	第3項	安全安心なまちづくり				
施策の目標	・「地域子ども安全ボランティア」や「子どもを守る110番」など、地域住民の協力を得ながら登下校時の子どもの安全を確保する。					
現状と課題	・子どもの安全確保のため、「こどもを守る110番の家」の拡充、地域子ども安全ボランティアとの連携強化により、地域ぐるみの防犯活動を推進する。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	子どもの安全対策強化	・登下校時の児童生徒の安全を確保するため、地域子ども安全ボランティアの登録推進や研修会の実施。	・保護者や地域住民が、地域子ども安全ボランティアとして、登下校の見守りや、あいさつ・声かけ運動を行うことにより子どもの安全確保が図られた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	子どもの安全対策強化	地域子ども安全ボランティア会員数(人)	767	754	768	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・地域子ども安全ボランティアとの連携を密にし、組織の強化を図る。また、ここ数年はボランティア会員数がほぼ横ばいであるが、平成19年のピーク時と比較すると、会員数が減少傾向にあるため、増加促進を図っていく必要がある。					
教育行政評価委員による意見	・地域子ども安全ボランティア会員として登録はされていないものの、地域によっては独自で同様の取り組みを行っているところもあると聞いている。引き続き、会員の増加促進を図るとともに、関係機関と連携をしながら地域の防犯活動を推進して欲しい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	地産地消の推進			担当課	学校給食センター		
総合計画 における 位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる					
	第1項	地域を支える産業の元気と働く環境づくり					
施策の目標	・学校給食において地場産物を利用拡充し、地産地消の更なる推進を図る。						
現状と課題	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における地元産食材の利用状況は、米、豆腐、醤油、こんにゃく等は全て地元産を使用している。</li> <li>・長ネギ、きゅうり、大根、白菜、キャベツ等を中心に多く取り込んでいる。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の確立及び整備に取り組んでいるが、露地物野菜のため時期が限られており、食材の種類や数量の安定した確保が難しい。</li> </ul>						
事務事業の 成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価	
	地産地消の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元食材にこだわった特別メニューで児童生徒への地域理解を高める。</li> <li>・米粉パン導入による地元産コシヒカリ米の消費拡大と安心した給食の提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産物を利用した地元産コシヒカリ米及び野菜等の導入により、子どもたちが地域との愛着や関心を高め、安全安心な学校給食に活かしている。</li> </ul>			b	
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価	
	地産地消の推進事業	学校給食での地場産物の使用割合(%)	58	58	56	b	
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA常陸及び地元産取扱業者並びに生産団体との連携を図り、定期的な地元産食材の調達を行う。</li> <li>また、現状の食材以外にも地元産の利用できる食材があれば積極的に使用する。</li> </ul>						
教育行政 評価委員 による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の取り組みは年々積極的に行われているが、例えば学校給食においてネギやきゅうりなどの野菜一品一品を地元産と言われても子どもたちにとっての関心度は高くはないのかもしれない。全体のメニューを通して常陸太田の特色を活かすことで、子どもたちの地域への愛着心を育ててほしい。</li> <li>・他市と比較すると、味や品目の多さなど常陸太田の給食は美味しいとの評判である。積極的にPRしてほしい。</li> </ul>						

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	歴史資源の確保・活用		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の活用を積極的に進めることで、市民が文化財をもっと身近に感じ、その重要性和保護の必要性を啓発する。</li> <li>市民との協働により、文化財の保護・活用体制の充実を図る。</li> <li>文化財の整備を進め、後世に伝えていくとともに、地域の資源として積極的な活用を図る体制をつくる。</li> <li>建物の修復再生工事が完了する郷土資料館では、企画展やイベントの開催により来館者を確保する。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>所有者が主体となって整備事業に取り組み国、県、市が補助をしながら進めているが、多額の費用を必要とし、所有者の負担が大きい。また、災害復旧事業も本格化し、費用負担の増とともに、各種調査も入ってきており、市としての費用負担と事務量が增大している。</li> <li>指定文化財については公開の体制が確立され、地域・大学と協働による公開も行われ、イベントとして浸透している。</li> <li>埋蔵文化財専門職員が配置されていることで、国庫補助事業の採択を得ている。</li> <li>郷土資料館は修復再生工事が完了することで、多くの方に来場してもらえるような魅力ある展示・イベントを開催する必要がある。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	指定文化財公開推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財集中曝涼の開催</li> <li>西金砂神社小祭礼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外3か所を含む16か所で公開延6,154名が来場</li> <li>茨城大生の解説ボランティア</li> <li>西金砂神社田楽舞の公開</li> </ul>			b
	文化財保護普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財ガイドブック・絵はがき(2種類)の販売</li> <li>歴史のさんぽ道スタンプラリー開催(小学5年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財ガイドブック販売163冊</li> <li>文化財絵はがき販売211組</li> <li>スタンプラリー達成者21名</li> </ul>			C
	指定文化財保存整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内遺跡調査</li> <li>西山荘の国指定申請に向けた調査検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発に伴う試掘3か所</li> <li>公共事業に伴う発掘調査3か所</li> <li>西山荘調査報告書の発行(繰越)</li> </ul>			b
	郷土資料館整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土資料館所蔵資料整理</li> <li>郷土資料館修復再生工事</li> <li>企画展の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員有資格臨時職員1名雇用</li> <li>郷土資料館修復再生工事(11/22再オープン)</li> <li>企画展を5回開催し、9,826人が来館</li> </ul>			a
指定文化財等災害復旧事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>水戸徳川家墓所、西山荘、正宗寺総門の災害復旧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水戸徳川家墓所…H28まで</li> <li>西山荘…H26まで</li> <li>正宗寺総門…H26まで</li> </ul>			b	
成果を示す主な指標	指標名(単位)		H24	H25	H26	評価
	指定文化財公開推進	指定文化財集中曝涼延べ来場者数	4,593	3,907	6,154	a
	文化財保護普及啓発	文化財ガイドブック有償頒布数	189	145	163	b
	郷土資料館企画展開催	企画展開催期間中の1日平均入場者数(人)	11	-	92	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					

<p>課題と 今後の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8回目を迎えた指定文化財集中曝涼は、2日間とも天候に恵まれ、過去最大の入場者があった。茨城大学の学生による展示資料の解説も内容が充実し、来場者からも地域からも好評であった。</li> <li>・第199回西金砂神社小祭礼が行われたが、県指定無形民俗文化財「町田火消行列」が参加できなかった。次回に向けて参加できる体制づくりなどへの支援が必要である。</li> <li>・西山荘については、平成27年1月末の国指定申請に向けて取り組んできたが、7月申請にずれ込んでしまい、報告書の発行が繰り越し事業となってしまった。</li> <li>・平成23年度から取り組んだ郷土資料館の改修は、繰り越し事業となったが平成26年11月で完了した。NPOへ管理を委託し、子育て世代の人が管理に従事するなどの特色を出したこともあり、来館者に好評を得ている。</li> <li>・11月に再オープンした郷土資料館は、5回の企画展示を行い、約4か月間で予想を大幅に超える1万人近い来館者があり、好評を得ることができた。また、5回の企画展のうち3回を関係団体との連携によって行ったことで、身近な存在をアピールすることができた。</li> <li>・指定文化財の災害不朽復旧にあたっては、国・県の補助を受けながら事業に取り組んでおり、早期の事業完了をめざしているが、文化財の復旧という特殊技術を要するため、H28年度まで継続する状況である。</li> </ul>
<p>教育行政 評価委員 による意見</p>	<p>・文化財へ案内する案内表示板が以前より充実してきた。市外から来られた方への親切心が感じられる。文化財に対する興味関心は市民それぞれの価値意識があると思われるが、より多くの市民に地域の良さ・誇り・愛着が再確認できるような取り組みを期待したい。郷土資料館の再オープンは、新しい取り組みにより多くの来館者があり、好評である。</p>

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化				担当課	文化課
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会構造の変化や個人意識の多様化に伴い、地域コミュニティの衰退や地域の伝統文化等の風化が危惧されていることから、エコミュージアム活動により地域づくりに取り組む市民の自立性が喚起され、地域の良さや誇り、愛着を再認識し、温もりのあるコミュニティの醸成を図り、更には、地域の人や資源を活かした地域活動(環境整備や交流活動、生産及び経済活動)を推進し、次の世代に引き継ぐことを目的とする。</li> </ul>					
現状と課題	<p>(現状) 地域住民が主体となって、地域資源を認識し、暮らしや地域を見つめ直し、地域への愛情と誇りを持てる活力ある地域づくりを、地域主体で市民主導型の活動となるように支援している。</p> <p>(課題) エコミュージアム活動への更なる市民参加の向上を図る。 茨城県北ジオパーク推進協議会と連携しジオ資源の活用を図る。</p>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	エコミュージアム活動の普及啓発活動事業	・エコミュージアム(地域全体が博物館)の理念や概念の推進をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の会議や集会など様々な機会で開催活動を行った。</li> <li>・広報紙、ホームページ等で情報発信を行った。</li> <li>・エコミュージアム活動パネル展を開催した。</li> </ul>			b
	地域資源の再発見活動事業	・自分たちの住んでいる地域にある自然や歴史、文化資源などを確認し、地域の魅力を再発見する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の良さや誇りと愛着を再認識し、コミュニティの醸成が図られた。</li> </ul>			a
	地域資源の整備活動事業	・発見した資源を保全し、活かした整備活動支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明版や総合案内版を整備することにより、来訪者から喜ばれている。</li> </ul>			b
	地域資源の利活用支援事業	・整備された地域資源を活用して、その地域ならではの活動展開を推進、支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流の輪が広がり、交流人口の拡大が図られている。</li> </ul>			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	エコミュージアム活動	エコミュージアム活動の推進	17	19	21	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアム事業は、地域が主体となるような中長期的な展望にたったものであり、生活に密着した循環型社会の構築を目指し、積極的に推進する必要がある。</li> <li>・また、職員による積極的な地域訪問や説明会を基本としているが、情報媒体を利用した活動の紹介や地域間交流活動の新たな展開を推進したい。</li> <li>・今後は、エコミュージアム活動を継続している地域の広域的な活動の展開として連携支援を行いながら、地域が自主展開できる支援も併せて検討していきたい。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明板が場所によって古くなり見づらくなっているため、関係機関と連携し整備活動事業を推進してほしい。また、本市は自然や観光資源に恵まれているので、エコミュージアム推進員によりPRの工夫を図ってほしい。</li> </ul>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成26年度事業)

施策名	広域連携・交流の推進		担当課	図書館		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	・5市(日立市, 高萩市, 北茨城市, 福島県いわき市, 常陸太田市)の図書館の条例・規則等の定めるところにより, 貸出その他の広域利用に必要な事業を行う。					
現状と課題	・5市の協定を締結して, 平成23年7月から実施している。広域利用カードを作製し, 利用市立図書館へ登録して図書資料の貸出を行っている。隣接市の利用が多いので, 今後は隣接市町村との相互利用を進めていきたい。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公共図書館広域相互利用	・5市(日立市, 高萩市, 北茨城市, 福島県いわき市, 常陸太田市)の図書館が, 広域利用協定市の利用者にそれぞれ図書資料の貸出を行っている。	・地元の図書館へ行くのが不便だった利用者が, 他市の図書を借りられるようになり, 図書の利用向上が図られた。 利用カード登録者数 …215人 * 他市の利用カード登録者数 日立市……1055人 高萩市……387人 北茨城市…215人 いわき市 …629人			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H24	H25	H26	評価
	公共図書館広域相互利用	貸出数(冊)	2,004	1,629	1,707	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・5市の協定を締結して, 平成23年7月から実施している。広域利用カードを作製し, 当市立図書館への登録者数は215人(内訳: 日立市…209人, 高萩市…3人, 北茨城市…0人, いわき市…3人), 常陸太田市民が協定市に登録している数は279人(内訳: 日立市…268人, 高萩市…1人, 北茨城市…0人, いわき市…10人)である。今後も引き続き広域相互利用を継続していくが, 更に隣接市町村との相互利用も推進していく必要がある。					
教育行政評価委員による意見	・図書利用や市民の利便向上性を図るため, 隣接市町村(常陸大宮市・那珂市・東海村)への相互利用の範囲拡大を図ってほしい。					

## 参考 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5名の委員により構成されている。

常陸太田市教育委員会委員 [平成27年3月31日現在]

職名	氏名	任期
委員長	小林 憲男	平成25年10月5日から平成29年10月4日まで (平成25年10月7日から委員長職務代理者) (平成26年10月7日から委員長)
委員長職務代理者	本多 技研	平成24年4月1日から平成28年3月31日まで (平成26年10月7日から委員長職務代理者)
委員	根本 恵子	平成23年4月1日から平成27年3月31日まで (平成25年4月1日から委員長職務代理者) (平成25年10月7日から委員長) (平成26年10月7日から委員)
委員	佐川 美登里	平成25年4月1日から平成29年3月31日まで
教育長	中原 一博	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで 平成25年4月1日から平成29年3月31日まで

### 2 教育委員会の活動状況について

定例会、臨時会など、平成26年度における本市教育委員会の主な活動状況は、次のとおりである。

年月日	出席委員数	件名
平成26年4月1日	5名	協議会 ・教育委員会事務局新任職員紹介
平成26年4月7日	3名	市内小学校入学式
平成26年4月8日	2名	市内小学校入学式
平成26年4月24日	5名	定例会 ・平成25年度常陸太田市一般会計補正予算(第1号)(教育費関係)の編成に対する意見の専決について ・常陸太田市学校事務共同実施グループに係る中心校と連携校の指定について ・常陸太田市学校事務共同実施グループ事務長の任命について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市社会教育委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年5月26日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市立小中学校設置条例の一部を改正する条例の意見について</li> <li>・常陸太田市立幼稚園保育料徴収条例施行規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市学校防災推進委員会設置要綱の一部改正について</li> <li>・常陸太田市奨学生選考審査会委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について</li> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算（第2号）案（教育費関係）の編成に対する意見について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年6月26日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市学齢児童生徒の就学すべき学校指定に関する規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市障害児就学指導委員会委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市社会教育委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について</li> <li>・平成26年第2回市議会定例会（6月定例会）一般質問及び答弁要旨について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年7月4日	4名	<p>臨時会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育財産（旧河内小学校）の所管換えについて</li> </ul>
平成26年7月24日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算（第3号）案（教育費関係）の編成に対する意見の専決について</li> <li>・教育財産（旧佐都小学校）の所管換えについて</li> <li>・平成27年度使用小・中学校教科用図書採択について</li> <li>・平成26年度教育委員会主要事業の概要について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>

平成26年8月28日	4名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅津会館設置及び管理に関する条例を廃止する条例の意見について</li> <li>・常陸太田市郷土資料館設置及び管理に関する条例を全部改正する条例の意見について</li> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算（第5号）案（教育費関係）の編成に対する意見について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年9月24日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度小中学校県費負担教職員の勤務評定の結果について</li> <li>・梅津会館組織運営規則の廃止について</li> <li>・常陸太田市郷土資料館設置及び管理に関する条例施行規則の全部改正について</li> <li>・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について</li> <li>・常陸太田市教育委員会委員長の選挙について</li> <li>・委員長職務代理者の指定について</li> <li>・平成26年第4回市議会定例会（9月定例会）報告について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年10月15日	5名	学校訪問（太田中、峰山中、太田進徳幼稚園、太田小）
平成26年10月17日	5名	学校訪問（世矢小、世矢中、世矢幼稚園、機初小）
平成26年10月29日	4名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算（第6号）案（教育費関係）の編成に対する意見の専決について</li> <li>・常陸太田市いじめ防止基本方針について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年11月12日	5名	学校訪問（佐竹小、西小沢小、幸久幼稚園、幸久小）
平成26年11月14日	5名	学校訪問（誉田小、瑞竜中、のぞみ幼稚園）
平成26年11月28日		<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市公の施設に係る指定管理者の指定について</li> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算（第8号）案（教育費関係）の編成に対する意見について</li> <li>・平成26年度（平成25年度対象）教育に関する</li> </ul>

		<p>事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度常陸太田市教育振興大会について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成26年12月25日	5名	常陸太田市教育振興大会
平成26年12月25日	5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年第5回市議会定例会(12月定例会)一般質問及び答弁要旨について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成27年1月11日	5名	平成27年成人式
平成27年1月29日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸般の報告について</li> </ul>
平成27年2月26日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市教育委員会教育長の勤務時間その他の勤務条件及び職務に専念する義務の特例に関する条例の意見について</li> <li>・地方教育行政法の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の意見について</li> <li>・常陸太田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例の意見について</li> <li>・平成26年度常陸太田市一般会計補正予算(第10号)案(教育費関係)の編成に対する意見について</li> <li>・平成27年度常陸太田市一般会計予算案(教育費関係)の編成に対する意見について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成27年3月11日	5名	市内中学校卒業式
平成27年3月16日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県費負担教職員の任免等の内申について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成27年3月31日	5名	<p>臨時会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市教育委員会会議規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会事務局組織規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会教育長の期末手当に関する規則の廃止について</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会公印規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会公告式規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会に対する事務委任規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会教育長の権限に属する事務の一部を小学校及び中学校の校長並びに幼稚園の園長に委任する規程の一部改正について</li> <li>・常陸太田市教育委員会事務局処務規程の一部改正について</li> <li>・常陸太田市立幼稚園保育料徴収条例施行規則の廃止について</li> <li>・常陸太田市立小中学校通学費補助金交付要綱の一部改正について</li> <li>・常陸太田市学校医の委嘱について</li> <li>・常陸太田市公民館長の任命について</li> <li>・常陸太田市公民館主事の任命について</li> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市スポーツ推進委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の任免について</li> <li>・平成27年第1回市議会定例会(3月定例会)一般質問及び答弁要旨について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
--	--	---

**平成26年度 教育委員会の会議開催状況**

- 1 開催回数 15回(定例会12回、臨時会2回、協議会1回)
- 2 議案件数 49件
- 3 報告件数 4件
- 4 選挙件数 2件